

〈21世紀を目指して—躍動する熊本の産業〉

現在でも各種の先端技術の活用・組み合わせにより、毎日のように新しい製品が日本の、そして世界の市場に送り出されていますが、これから21世紀に向けて著しい成長が期待される先端技術産業は非常に広い分野にわたるものと予想されます。

この中で、熊本テクノポリスでは4つの産業を核に、高度な産業社会の実現を目指しています。応用機械(Automation)、バイオテクノロジー(Biotechnology)、コンピュータ(Computer)、情報システム(Data processing)の4つで、英語の頭文字をとってA、B、

C、D産業と呼んでいます。

これらの産業は、熊本テクノポリスにおける産業の骨組を形づくるものと期待されますが、飛躍に向けて、その芽は着実に育っています。

世界一の生産拠点として外国の新聞にも取りあげられ世界的に注目されているIC生産については、熊本に立地した我が国を代表する企業を核としながら、いろいろな分野からIC生産やIC利用などの先端技術へ意欲的な取り組みを行っている地元企業もたくさん出てきています。

また、地元でネジやビスなど単一製品の製造や進出企

業の下請け等から出発した小規模企業が、独自の努力によって、新しい製品・技術を開発し、世界の市場を相手にするなど、大きく成長している企業も出てきています。

現在では、まだ多くの点で模索の段階にありますが、21世紀にはかならず花開く産業といわれているバイオテクノロジー(応用微生物)産業について、全国的にみても先端的な研究開発、生産を行っている機関もあります。バイオテクノロジーが産業として成り立つためには欠かせない研究開発と生産、技術者の養成を結びつけていく場も育ってきており、バイオテクノロジーが新時代の産業として、熊本に必ずや根付いていくであろうと大きな

期待が持たれています。

エネルギー、食糧に次いで第三の資源といわれている情報の分野でも、最近に至って、熊本への先端的な企業の立地が活発化しています。地元の若い頭脳による情報産業への種々な取り組みもはじまっています。

このような、熊本テクノポリスの骨組みとなる産業の生き活きたした展開は、水保・八代・有明などの地域に、これまでの長い間にわたって蓄積されてきた高い工業の技術基盤、生産基盤に大きく支えられています。

こうして、今、先端的な技術産業を中心として、県産業が大きく飛躍していく地盤は着実に作られています。

